

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日

2025年11月27日

P T A名		静岡県立富士特別支援学校 富士東分校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	41人				

1. 使用状況

寄贈物品名	耕運機
使用学年及び人数	1～3年 12人
使用頻度	週4回
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習で農耕班が使用している。土づくりや畝立ての前等に、土を耕すために使用した。 夏場は草が繁茂してしまうので、土を耕す作業の他、除草作業にも使用した。 水はけ対策として、畝間の中耕作業で使用した。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> 耕運機で腐葉土やたい肥を土とまんべんなく混ぜて耕し、土壌改良につながった。 土が柔らかくなったので畝を立てやすくなり、水はけが良い畑になった。 鍬で耕すよりも効率が上がった。 機械を扱うことで、生徒が安全に気を付けて操作する意識が高まった。 多くの生徒が道具を扱う面白さを感じ、耕運機の操作を希望した。作業意欲の向上につながっていた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> 耕運機の活用が、作業の効率化や生徒の作業意欲向上につながっているため、今後も継続して使用していきたい。 課題としては、安全に使用していくためのメンテナンスやガソリンの管理が必要であり、農耕班担当教員が専門的知識を持つ必要がある。 農耕班の生徒全員が耕運機を扱えるようにするための安全周知をする必要がある。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> 農耕班では、できた作物を東高生や教職員に販売し、共生・共育推進の一助になっている。こうした取り組みを継続し、よりおいしい野菜作りのため、耕運機を今後も有効活用していきたい。

2. 活用の様子

夏野菜



耕運機を使って土をよく耕し、
おいしい野菜を
収穫することができました
収穫後は、
富士東高校の先生方に
購入していただきました



冬野菜



Fuji East Bunkou Agriculture Group